

〒100-8505 東京都千代田区内幸町2-1-4
TEL:03-3595-6917 Eメール:shakai@tokyo-np.co.jp

立川支局

電話:042-524-0061
FAX:042-524-0063

np.co.jp Eメール:tama@tokyo-np.co.jp

通信局・部

武蔵野 0422-43-2134
八王子 042-656-2313
町 田 042-524-0061

購読のお申し込み
0120-026-999

配達・集金お問い合わせ
03-6910-2556

広告のご用命
03-6910-2489

諸願祈願

鹿野山神野寺

☎ 0 4 3 9 (3 7) 2 3 5 1

都心

大分出身の画家・清末敏さん

大分県出身の画家清末敏さんの回顧展が12日、中央区銀座1の「銀座レトロギャラリー MUSEE(ミュゼ)」で始まった。敏さんが難病と闘いながら残した作品などから、妻と2人の娘が選んで展示している。(竹上順子)

新聞記事が縁
銀座で回顧展

敏さんは国東半島の出身。幼いころ父親を亡くし、中学生で東京の伯父の家へ。高校卒業後は新聞配達をしながら油絵を学び、結婚してからもさまざまなアルバイトをして絵を描き続けた。

四十代後半で体調を崩し、「原発性胆汁性肝硬変」という難病と判明。その後、三部作「無穹」の制作に取りかかった。敏さんの妻節子さん(仮)「東大和市」は「前から納得のいくまで描き直す人だったが、この絵も描いては削り…を繰り返していた」。敏さんは二〇

病と闘いながら描いた作品など

〇九年に六十一歳で亡くなった。

会場には十四点を展示。強い意志を感じさせる「自画像」は、節子さんと出会ったころの二十代初めの作品。「無穹」は、暗い背景に浮かぶたくましい腕と大きな手が、頭を抱えたり祈るように組まれたりしている。

回顧展は二回目。会場は一度取り壊しが決まったが、大分県出身の男性がよみがえらせた築八十年超のビル。節子さんが新聞記事で知り、「同郷で縁を感じた。絵の雰囲気合いそう」と開催を決めた。二人の娘と「お父さんらしい絵を」と選んだという。

十六日まで。入場無料。問い合わせは、MUSEE 電話03(62228)6694へ。

清末敏さんの自画像の前で

「出会ったよそのまま」と話す節子さん(中央)銀座1の「銀座レトロギャラリー MUSEE」で

